



KANSAI
UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

December 2019

vol. 31



先生に寄り添ったFD活動を！

教育推進部准教授 岩崎 千晶



皆さんは、「関西大学教育開発支援センターニュースレター」の前身をご存知ですか？本ニュースレターは2009年に創刊号が出ましたが、もともとは「関西大学FDフォーラム」として親しまれており、創刊号は2001年に発刊されています。なんと今年で20年も続いています。

2001年の創刊号には授業評価アンケートの分析結果について丁寧に記述されており、全学的な新任教員研修を初めて実施したことについても述べられています。当時は、FD部門・授業評価部門委員会がこれらの活動を担っており、初代委員長は今年の元旦にご逝去された総合情報学部の水越敏行先生でした。

水越敏行先生は教育工学を専門とし、国内外において活躍した研究者です。初等中等教育を中心に授業研究をされてい

ましたが、初代FD部門・授業評価部門委員長として、高等教育においても教員の授業をビデオで撮影し、それを振り返るという授業研究を行われました。実際に第2回FDフォーラムでは「ビデオを用いた大学の授業研究」が開催されています。

水越敏行先生は現場主義を大事にしておられ、小学校、中学校、高等学校、大学という教育現場に出向いて、それぞれの授業を観察され、どうすればより良い授業を展開できるのかについて、担当教員と意見交換を重ねてこられました。時間を惜しまず現場に出向き、話し合うプロセスを通して、良い関係性が醸成されていき、互いにより良い授業を目指すようになっていくのだと思います。

私は今年創立25周年を迎えた総合情報学部の1期生で、大学院生のころに水越

敏行先生から指導を受けました。水越敏行先生から学んだ、現場主義、担当教員との関係性づくりは、私の教育活動において、今もとても大事にしています。FD活動においても、先生方と対話をしながら、可能であれば授業を見せていただき、楽しみながらお互いに気づきが育まれるようなFD活動にしたいと思っています。今年もある先生の協力をいただき授業見学をさせていただきました。至らないところはまだまだありますが、先生からのご依頼をいただければ、授業見学に伺わせていただきます！お気軽にお申し付けください。先生に寄り添いながらFD活動をすすめていきたいと考えています。

なお、ニュースレターは創刊号からwebにてご覧いただけます。ぜひご活用ください。

フォーラム・セミナー報告

第21回 関西大学FDフォーラム「授業評価アンケートを展望するーその多様性と可能性ー」を開催しました

日程：2019年7月20日(土)

場所：千里山キャンパス第2学舎2号館C303教室

7月20日、『授業評価アンケートを展望するーその多様性と可能性ー』をテーマに第21回関西大学FDフォーラムを開催しました。アンケートの位置づけは大学によって区々ですが、この多様性はアンケートの可能性を示唆しています。

中部大学の杉井俊夫氏、金沢工業大学の寺岡伸郎氏、京都産業大学の津野十紫氏が登壇し、それぞれの取組について報告されました。

中部大学では、学生による授業評価と教員による授業自己評価が並行して実施され、その結果を比べられます。設問内容や回答肢を教師が自由に設計できる授業改善のためのアンケートも学期中に随時実施しています。

金沢工業大学では、学習支援計画書としてのシラバスをLMS上に反映することで、授業関連情報を漏らさず入手することや反転学習を可能にしておき、かかる環境下における学生の学修状況をつぶさに把握するためにアンケートが活用されています。その結果に対して担当教師がフィードバックコメントを作成し、学生の意見への回答として、あるいは次年度の改善計画として公表しています。

京都産業大学では、学期の中間期に「教員-学生間の授業に関する対話シート」を用いて把握した学生の意見や要望に対し、教員がフィードバックをおこない、また授業の進め方の調整を図っています。学期末には「学習成果実感調査」と称して、学生が自身の成長を評価します。

ここに共通しているのは、単に教員のパフォーマンスを評価するのではなく、学生の学びに寄り添い、それを深めていくために何が必要なのかを視野にいれそれを学修支援の改善に繋げていることです。このアンケートの新しいフェーズをより多くの大学に広げるべく、まずは自身の取組を見直す必要を痛感しました。

(教育推進部教授 三浦真琴)



パネルディスカッションの様子

ティータイムセミナーを実施しました

5月29日、6月19日、7月3日、ループリックの作り方と使い方のティータイムセミナーを



講師と参加者で意見交換をする様子

千里山キャンパスで開催しました。「ループリック」はレポートや口頭発表、実習、グループワークなどの学習課題(パフォーマンス課題)を評価するツールのひとつです。今回のセミナーでは、ループリックを「作る」「導入する」「修正する」の3つのテーマ(1テーマ1時間)について、公平で質の高いパフォー

マンス課題の評価と、学生の学びを促進する方法について大いに議論しました。参加された教職員の方からは「議論によって問題点が明確になった」「解決の筋道が見えて頑張れそうです」とのコメントを頂きました。

(教育推進部特別任命助教 多田泰紘)

●CTLウェブサイトで記録動画・資料を公開しています

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/activity/fd.html#seminar>


アカデミックスキル ワンポイント講座を実施しました

教育開発支援センターライティングラボでは、文章作成やICTを使った学習などの、アカデミックスキルを学べる授業外講座を開催しています。2019年度秋学期は、卒論コース5テーマとアカデミックスキルコース5テーマ、特別回1テーマ(1テーマ30分)

を昼休みに実施しました。すでに終了したテーマの動画と資料は下記ウェブサイトで公開しております。先生方の指導や授業等でぜひご活用ください。なお、ライティングラボでは学部学生を対象とした日本語の文章作成指導を行っています。こちらも併

せてご活用ください。

(教育推進部特別任命助教 多田泰紘)



特別回「留学志望動機書の書き方」の様子

●ライティングラボ ウェブサイトで記録動画・資料を公開しています

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/onepoint-advice/index.html>


ラーニングCaféを実施しました

2019年度春学期のラーニングCaféでは、「集めた情報をすぐ探せるデジタルストック法」や「英語ってどう学ぶべき?? ~ネイティブスピーカーに聞いてみよう~」といった学習に役立つ実用的なテーマに加え、「ひらめきの下準備 アイデアを呼び込もう」や「自分で考えるキッカケをつかもう!」と題したテーマで、個々人の内面を見つめるワークショップを行いました。一方的なレクチャーではなく、ファシリテーターを務めるLAと参加学生が

共に学び合える形になっているのか、企画から実施当日までLAと試行錯誤しました。参加学生の反応もよく、実施後のアンケートでは、「自分の意見が否定されることなく共有することができる心地の良い空間であった」といった感想もありました。参加学生にとって自分が感じた素のままの意見を伝え、共有することの大切さに気づく機会になったようでした。

(教育開発支援センター
アドバイザースタッフ 佐藤栄晃)

日程：2019年6月19日(水)、26日(水)、7月3日(水)、10日(水)
場所：千里山キャンパス凜風館コラボレーションコモンズ ラーニングエリア2



LAによるファシリテーションの様子

スポーツ入試入学生を対象に 「文書作成能力向上講習会」を実施しました

日程：2019年3月29日(金)～11月6日(水)
場所：千里山キャンパス第4学舎3号館3101教室、他



講習会の様子

スポーツ入試(スポーツ・フロンティア入試、法学部スポーツ入試、政策創造学部スポーツ入試)入学生を対象とした「文書作成能力向上講習会」を、入学前1回、入学後の春学期2回、秋学期3回の計6回(1回75～90分)実施しました。受講生は、まず入学前の講習会で大学のレポートの特徴と、ライティングラボなど文書作成をサポートする施設の説明を受けました。つぎに春学期にレポートの書式や書

き言葉の使い方を学び、与えられたテーマに沿ったレポート作成に挑戦しました。最後に、秋学期の講習会で論証レポートの書き方を学び、自分でテーマを決めて文献を集め、2000字程度のレポートを作成しました。

全6回の講習会を経て、学生は文書作成能力を大きく向上させ、自信をつけました。

(教育推進部特別任命助教 多田泰紘)

関西大学北陽高等学校との連携講座 「クリティカル・シンキングワークショップ」を実施しました

日程：2019年8月21日(水)、22日(木)
場所：千里山キャンパス総合図書館ワークショップ・エリア

関西大学北陽高校の2年生を対象に、「クリティカル・シンキングワークショップ」を実施しました。8月21日に30名、8月22日に30名、総勢60名の参加がありました。関西大学千里山キャンパス総合図書館ワークショップ・エリアで、関西大学教育推進部教授と日頃交渉学の授業、クリティカル・シンキングの授業で活躍するLAが研修を担当しました。

日頃高校の授業では体験できないアクティブラーニングによる主体的なディスカッションを通して、参加した高校生は思っていることや考えていることをこばでコミュニケーションすることの大切さを

実感し、他者間のwin-winな人間関係の構築にむけての交渉学のシミュレーション体験をしました。ワークショップ後の

学びのふりかえりシートからも、心に残る研修になったようでした。

(教育推進部教授 山本敏幸)



ワークショップの様子



LAによるファシリテーションの様子

新任教職員紹介

教育開発支援センター



ライティングラボアカデミック・アドバイザー 藤田 里実

11月1日よりライティングラボのアカデミック・アドバイザーとして着任いたしました藤田里実です。これまでライティングなどの授業担当やライティングを中心としたチュータリング業務を通して、学生さん一人一人の「書けない」に向き合ってきました。

「書けない」にもいろいろありますが、それを解きほぐしていく、必要な支援を探り、ともに考えた末の「書けた!」に立ち会えた時の気持ちは格別です。関西大学の学生さんとも、書ける喜びを共有していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

教育開発支援センターからのお知らせ

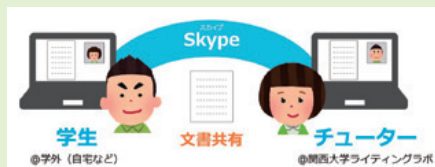
ライティングラボでオンライン相談を開始しました

教育開発支援センターライティングラボでは、2019年度秋学期より、日本語のレポートや卒業論文の「オンライン相談」を本格的に開始しました。このオンライン相談は、予めライティングラボのウェブサイトで予約し、Skypeを使って大学院生のチューターから指導を受けるというものです。オンラインで相談する

ため、学生は学内外を問わず文書作成のアドバイスを受けることができます(これまで通到来室して相談を受けることもできます)。

詳しくは下記ウェブサイトおよびライティングラボで配布しているチラシをご確認ください。

(教育推進部特別任命助教 多田泰紘)



オンライン相談に
対応する
藤田里実先生

●オンライン相談の方法

http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/2019/11/25/online_tutoring_guide_for_students_1118.pdf



●オンライン相談予約

<https://tecfolio.kansai-u.ac.jp/kwl/>



関大LMSのライティング教材をご利用ください

ライティングラボでは授業内外で活用できるオンラインコースを制作し、関大LMSで公開しています。このコースでは「引用・

剽窃」「参考文献の書き方」「実験ノートの書き方」等、レポートや卒業論文を書くために必要なスキルを動画(各4~8分)を

通して学ぶことができます。レッスン動画の授業内での活用、学生の自主学習の促進にぜひご利用ください。

コース名「ライティング力を高めて、いいレポート・卒論を書こう!」

■アクセス方法

①関大LMS

<https://kulms.tl.kansai-u.ac.jp/>にアクセス

②右上「コースの追加」をクリック

③上記コース名の「メンバーになる」をクリック



関大LMS

■レッスン動画の一覧

ライティングラボウェブサイト

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/useful/pdf/index/e-learning.pdf> の

「ライティングに関するeラーニング

(関大LMS)」をご覧ください。



レッスン動画の一覧

From CTL事務局

2年前、私は新人事務職員として授業支援グループへ配属された。右も左も分からなかった私を、先輩職員だけでなく学生スタッフである授業支援SA(スチューデント・アシスタント)が支えてくれたおかげで、私はここでの業務を覚えていくことができた。今年度に入り私が初めてステーション異動を経験した

時も、カルチャーショックを受ける私に都度業務を教えてくれたのは授業支援SAであった。

授業支援SAの主な業務内容は、パソコンなどの機材の設置・回収や出欠調査・データ入力などといった授業のサポートだ。教員によって依頼内容が異なるため、窓口対応の段階でしっかり理解しながらヒアリングを行い、情報を共有することが必要になる。周りに気を配る能力に長けている授業支援SAが多いように

感じるが、このコミュニケーションの積み重ねがカギになっているかもしれない。

新規の授業支援SAが期を重ねてベテランになっていく瞬間が、今の私の楽しみになっている。数ある学内アルバイトの中から授業支援SAを選んでくれた学生が少しでも貴重な経験ができるよう、お互いに成長できる環境づくりにこれからも取り組んでいきたい。

(琢)



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2019年12月18日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター